

研修テーマ **きいて かんじて つながろう**

～思いや意図をもち、いきいきと表現する子どもの育成～

- 1 日 時 平成27年6月 9日(火) 13:45～16:50
6月10日(水) 8:35～16:50
- 2 会 場 倉吉市立河北小学校 倉吉市立西郷小学校
- 3 講 師 全日本合唱教育研究会常任理事 前田 美子 先生

4 研修内容

全国各地でご活躍の前田美子先生においでいただき、研修を行った。実際に、子ども達に歌唱指導をしていただき、子ども達が変わる姿から学ぶことができた。

前田先生の子ども達への声かけは、肯定的な温かい言葉であり、「よし、歌ってみよう。」と音楽の学習意欲が増すものであった。音楽に苦手意識を抱くような正解や技能の習得中心の学習ではなく、手の位置や方向を考えて指揮の振り方を工夫したり、学習のルールを示しながらも子ども達のありようが素直に表れる授業をしたりすることが大切だと学んだ。

また、子ども達を感じる疑問には、がんばろうとする気持ちを高めるような答えを返したい。例えば、「なぜ、学校で歌うのか」という疑問については、「新鮮な空気を身体中にするから。酸素が血の流れを助けて健康な身体づくりのもとになるから。」と話して、大きく息を吸ったりはいたりさせると、息の流れに気づいてフレーズ感として育つはずである。

研修テーマでもある「いきいきと表現する」子どもにするためには、友だちとのかかわり方や教室全体の空気感が大きい。どの子もお互いを認め合っていることが心の開放につながる。心が開放された状態でなければ、しっかり声を出して歌うことはできない。歌唱指導においては、「声を出して」「口を開けて」「歌って」という言葉をかける前に、選曲が子ども達の実態にあっているものかどうか、大きな問題である。子どもの心に寄り添った歌詞、曲の長さ、音域の高低、リズムやハーモニーの工夫についての視点で選曲することが大切である。長年、歌い継がれている「ふるさと」や「さくら さくら」のような音楽的な力のある曲を大事にし、指導者の思いだけで選曲することは避けたい。

そのうえで、子ども達の意欲につながる評価言で声をかけ、子どもの多様性を生かした指導をしたい。

さらに、「ねじを締めた声で歌って」とか「かかとを上げて→そのまま膝を曲げて」と肩の力を自然に抜かせて高音を響かせたり、親指の下を歯と歯の間に入れて歌って口が自然に開くようにしたりする方法も効果的である。そうすることで、響きの変化を実感させたい。

